

実践のまとめ（第3学年 国語科）

聖籠町立聖籠中学校 教諭 山田 絵美子

1 研究テーマ

**言葉による見方・考え方を働かせ、「深い学び」を実現する生徒の育成
～論語を現代の出来事と結びつけて解釈する活動をとおして～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

今年度の勤務校の研修テーマが「主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びを実現する生徒の育成～個に応じた指導をし、振り返りを行う授業をとおして～」であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を考えた時、重要な鍵となるのは、新学習指導要領（平成29年告示）に示されている「見方・考え方」を働かせることである。

「言葉による見方・考え方を働かせる姿」とは、どのような姿なのか。私は、普段何気なく言葉を使っていたことを生徒が自覚し、言葉を様々な側面から考えて、その捉え方やその伝え方を問い直す姿だと考える。

これらを踏まえて、これまでの自分の授業を振り返ると、以下の2点に課題がある。

1点目は、生徒への働きかけである。学習課題を何に注目して捉え、どう考えればいいのか不明確だったため、生徒の意欲を継続させることができなかった。生徒が既存の知識を活用して何をどう捉えて考えればいいのか単元レベルで授業を構想する必要がある。

2点目は、多様な生徒への対応である。生徒の理解や状況を把握できていないまま授業を進めていたため、生徒が学習をおもしろくないと感じたり、話し合っても学習がうまく深まらなかったりした。「深い学び」に向かわせるためには、振り返りで生徒それぞれの課題を明らかにし、ICT等を活用して個に応じた手立てを講じる必要がある。

以上から、教科リーダー研修（2年次）では、「論語」の中の言葉を根拠に、その意味を問い直して説明することをとおして、内容を深く理解させるとともに、「論語」が自分達の生活にどうかかわるかの視座を形成できるよう指示を工夫したい。また、多様な生徒に対応できるよう、単元を通じてICTを活用しながら知識の習得状況を把握したい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 言葉による見方・考え方を働かせるために、問題解決のための見通しを提示する。

『論語』は、多様な解釈が可能な書物である。それは多くの概念が複雑に絡み合っていたり、読み手の感性やこれまでの人生経験によって捉え方が変わってきたりするからだと考える。だから、内容理解だけでは表面的な解釈にとどまる可能性がある。そこで、目的意識をもって自作の論語スライドを作成し、解釈の妥当性を話し合わせる。そうすることで、文章に表れているものの見方や考え方が整理でき、学びの深化が図れると考える。

② 学びを支える学習の基盤ツールとしてのICT活用の工夫。

授業の前に、自宅で関連動画の視聴を指示するなど反転授業を促す。また、タブレットに小問題を送信したり、生徒の音読動画を提出させたりして、生徒が学習を調整できるような環境を整える。授業では考えたことを表現、共有するために、ロイロノートで資料を作成したり、共有したりする。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 孔子の見方・考え方を自らの経験と絡めて捉えなおし、今後の生き方に生かせそうなことを150字以上の作文にまとめることができたという生徒が80%以上。
- ② 自分の学びを調整するために、タブレットに送られてきた小問題や音読課題に分かるまで取り組むことができたという生徒が80%以上。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

5 古典に学ぶ 教材名「論語」（『現代の国語3』三省堂）

(2) 単元の目標

- ① 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどしてつかうことができる。【知識・技能】(3)イ
- ② 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考力・判断力・表現力】(C(1)エ)
- ③ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書をとおして自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。【学びに向かう力・人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどしてつかっている。(3)イ	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	粘り強く表現を工夫し、発表に向けて学習の調整を図りながら取り組み、自分の経験と照らし合わせた論語の解釈をスライド紙芝居で紹介しようとしている。また、最も共感できる論語を選び、自分の生き方と絡めて選んだ理由を言葉にしようとしている。

(4) 単元と生徒

時代や状況によっても変わることもない人間の生き方に関する含蓄ある孔子の考えが収められているのが『論語』である。これからそれぞれの道を歩みだしていく学習者にとって、今後の人生において折に触れて立ち返る言葉となることを期待するものである。生徒には、孔子の言葉を自分の身の回りの事柄と関連づけて読むことで、学習内容を深く理解し、孔子の生き方から学んだことを自分の力に変えてほしい。

本学級の生徒は、素直で、言われたことは取り組もうとするが、念頭に「難しそう」、「つまらなそう」と感じると抵抗を感じ、あきらめたり、他に気持ちを向けてしまったりする。また、間違いを恐れず自分の考えを説明することが苦手な生徒が多く見受けられ、話し合いでは積極的に発言できる生徒の意見で終わってしまい考えが深められない。そのためか、振り返りも「～がわかった。」だけで終わってしまうことが多い。一方、漢文の読解については、基礎が定着している生徒と、そうでない生徒との二極化が見られるため、個人的な支援を行いながら学習を進めたい。指導にあたっては、学び合いを取り入れ、発展的な課題にも最後まであきらめずに取り組めるようにしたい。また、論語の解釈において現代の自分たちが聞いて納得できるものになるよう、図書館資料やWEBも効果的に活用したい。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全5時間、本時 4 / 5時間）

●単元をとおして行う、次時までの課題→配信された「論語」の基礎知識（理解するまで）について的小テストや音読の動画（暗唱できるまで）をロイロノートに提出。

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<p>★単元に入る前に動画等を活用し、孔子について調べてくるように指示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや進め方をつかみ見通しをもつ。 ・論語の概要と訓読の仕方について確認をし、口語訳含め本文を音読する。 ・疑問点や突き詰めて考えたい事柄をロイロカードに書き提出する。 	<p>◎視聴覚教材を用いるなどして概要を理解しよう。</p> <p>◎訓読の仕方を確認し、漢文特有のリズムに注意して音読しよう。</p> <p>◎知ったこと、疑問点をロイロカードに記入しよう。</p> <p>★（次時までに）訓読文小テストと音読の動画を、ロイロに提出。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは『論語』の世界に関心をもち、これからの学習に意欲をもっているかを確認する。
2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や考えたいことを明らかにし、4つの章句の作者のもの見方にふれ、考えの中心をとらえる。 ・与えられた章句について調べてくるという宿題の確認と、次時からの活動の見通しをもつ。 	<p>◎教科書の四つの章句では孔子のどんなもの見方や考え方が表れているだろうか。</p> <p>◎次時から論語の班ごとに与えられた論語のスライド紙芝居を作ります。小学生にも分かるような紙芝居を作ろう。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート</p> <p>ここでは、訳や語句から、孔子の生き様を踏まえて「孔子のもの見方・考え方」を捉えているかを確認する。</p>
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の見通しをもつ。 ・創作の流れを知ったのち教師が提示するいいモデルと悪いモデルを見て、比較する。 ・班に与えられた同じ章句をそれぞれ個で作成する。 ・図書館司書に準備してもらった資料やWeb検索機能を活用しながら作成にあたる。 	<p>◎与えられた論語で小学5年生にもわかりやすいスライド紙芝居を作ろう。</p> <p>◎型を確認しよう。</p> <p>①テーマを書く。</p> <p>②訓読文・書き下し文を書く。</p> <p>③意味を書く。</p> <p>④なぜそう言えるのか、自分の経験か、自作のエピソードを入れる。</p> <p>◎型を参考にロイロ上で紙芝居を作成しよう。</p>	<p>[思考・判断・表現] スライド、行動</p> <p>文章を読みながら、文章に表れている「もの見方や考え方」について捉えているかを確認する。</p> <p>*本評価は、Aと判断する状況については単元最後の作文で判断する。</p>
(2) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の見通しをもつ。 ・個で作成したスライド紙芝居を班で発表、どれを使って全体発表するかを話し合う。 	<p>◎班発表会を行おう。</p> <p>◎それぞれの発表が終わったら書いたものを俯瞰して「小学5年生にも伝わりやすい」という観点で全体発</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を鑑賞し、自分の表現に生かそうとしている。 <p>[知識・技能] スライド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここではエピソードの作成に論語の一節を引用して

	・代表のスライドをロイロに提出する。	表するスライドを決めたり作り直したりしよう。	つかっているかを確認する。
4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・班代表6人が発表する。 ・一番小学生に内容が伝わり、エピソードのわかりやすい班のスライドをロイロのアンケート機能を使い、個人で投票する。 ・これまで学んだ論語の章句から最も共感できる論語を選び、選んだ理由を書き、今後の自分の生き方に生かせそうなことを150字以上でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎班の代表者の発表を聞こう。 ◎評価の観点から一番いいと思う班を投票しよう。 ◎これまで学んだ章句から最も共感できた論語を選ぼう。そこから、選んだ理由とその章句から学ぶ自分の生き方についてまとめよう。 	<p>[思考・判断・表現] ワークシート</p> <p>考えを広げたり深めたりして、知識や経験を踏まえた、孔子と自分のものの見方や考え方の比較しまとめている。</p>

4 本時の展開

(1) ねらい

互いに発表したスライド紙芝居を批評したり考えたりすることとおして、本時担当の章句に表れているものの見方や考え方について読みを深めることができる。

(2) 展開の構想

本時は論語に対する考えを広げたり深めたりして、自分の生き方について考えをもつという単元のねらいを達成するための言語活動である。

まず、第3次1時でまとめた内容の班発表会を行う。次にそれぞれの文章のよい点や改善点を見出す。それを基に、相手にわかりやすく伝えるための視点を確認し、どのエピソードや表現方法が妥当かを話し合っ一つ一つの作品を協働しながら作り直していく。

孔子の言っていることを、自分の体験や現代の出来事と絡めて解釈することとおして、自分の考えを広げたり、深めたりできる。さらに、相手にわかりやすく伝えるという観点をもって他者の考えと比べることで、孔子の見方・考え方への理解が更に進み、読みを深めることができると考える。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	教師の働き掛け 予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	・既習の確認と教科書の音読。	T ペアで交互に論語を音読しよう。暗唱している人は教科書を見ないで読んでみよう。	
展開 5	・前時までの確認 ・本時の見通しをもつ。	T「前時では、小学5年生にむけた論語のスライド紙芝居を作りました。」 T「今日はそれぞれで作成したスライド紙芝居を班で発表します。その後、それらの良さや改善策を話し合いながら、班で協力してよりわかりやすいスライドを完成させます。」	◇模造紙・付箋準備 iPadでプレゼンテーションする。
<p>課題：自分たちのスライド紙芝居がより小学5年生によりわかりやすくなるためには、表現やエピソードをどういった視点で作るといいだろうか。</p>			

3	・自分の考えを書く。	T「本時の課題について、先生のいい例と悪い例を比較して、どういった視点を取り入れるとスライド紙芝居がわかりやすくなる？自分の考えをロイロに書いて提出しよう。」	◇活動例を大画面に表示。
2 1 4	・全体で共有。 ・4人班で考えを出し合いながら付箋を拡大シートに張っていく。	T「ロイロノートで確認しよう」 T「自分のスライドを発表しよう。それぞれの発表後 わかりやすい (…青色の付箋) わかりにくい・提案(…ピンクの付箋) おもしろい (…緑の付箋) を記入しそれぞれのPMIシートに貼っていきこう。貼るときは書いた理由も伝えてね。」 T「同じ意見は重ねる、似ている意見は線でつなぐなどしてまとめよう」	◇ワークシート 付箋 準備 ○根拠とするスライドを示して、助言したり見直したりするように指導する。
1 4	・次の活動の確認 ・話し合いながら班でスライドを完成させる。 ・次時の確認。	T「わかりやすく伝えるために一番重視しなければいけない視点は何かだろうか。それをまず班で決めよう。次にどのエピソードや表現にするか話し合い、班で一つの作品を作ろう。」 T「班長のタブレットを使って全体発表用のスライドを完成させよう。」 T「班長はロイロの提出BOXに作ったカードを提出しよう。」	◇ロイロノートの「生徒間共有」機能の活用。
7	・振り返り	T「話し合いを通じてわかったことを、次の観点で振り返りに書こう。 ①相手によりわかりやすい文章にするために必要な視点はなにか。 ②孔子がこの章句で伝えたかったことは何だと考えたか。	[思考・判断・表現] ワークシート 他者との関わりの中なかで読みを深めたことや孔子のものの見方や考え方について自分の考えと振り返りで確認する。

(4) 本時における「思考・判断・表現」の評価

状況	具体的な評価
「十分満足できる」状況 (A)	話し合いをとおして、理解した本時の章句に表れている孔子のものの見方や考え方について自分の考えと照らし合わせながら振り返りに書いている。
「おおむね満足できる」状況 (B)	話し合いをとおして、理解した本時の章句に表れている孔子のものの見方や考え方について振り返りに書いている。

5 実践を振り返って

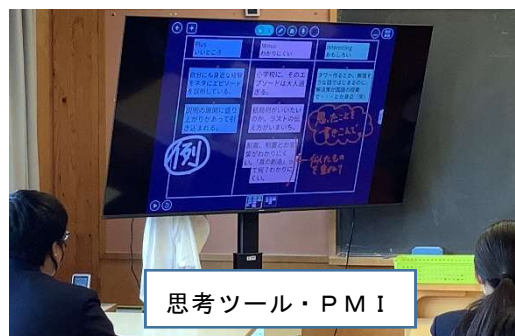
(1) 指導の実際

○生徒は「小学校5年生に分かるエピソードで作る」という目的意識をもって担当章句を読み解き、自分なりの視点をもって作成にあたった。ロイロノートを通じて事前にアドバイスを受けたことも重なって、生徒は自信をもって発表することができた。この活動で、生徒は他と自分の解釈の違いに気をつけながら聞き、新たな言葉の気付きや意味を獲得していた。「話し合いを通じて、やはり自分の考えで良かった。なぜなら他の発表

を聞いても同じとらえだったからだ。」「自分にはない解釈だったので驚いた。」の感想をみても、本時の活動により、孔子の見方・考え方に対する自分の考えを広げたり深めたりしたことが窺える。「自分の生き方について考えをもつ」という単元のねらいに向けた活動という点で、本時の目的は達成できたのではないかと考える。

○思考ツール「PMI」を活用し、思考を可視化しながら相手の発表を多面的に評価できたことは、本時の追究課題に迫るうえで有効だった。

▼展開2つ目の「一番重視しなければいけない視点は何か、班で決める」活動では、生徒が必要感をもって解決したい課題ではなかったうえに、何をねらってその活動を行うのかも不透明だった。学習過程の見通しが甘かったと反省している。



(2) 研究テーマに関わって

研究テーマにかかわる評価の達成状況は以下の通りである。

- ① 孔子の見方・考え方を自らの経験と絡めて捉えなおし、今後の生き方に生かせそうなことを150字以上の作文にまとめることができた。(92%の生徒が達成)
- ② 自分の学びを調整するために、タブレットに送られてきた小問題や音読課題に分かるまで取り組むことができたと答える生徒が80%以上。(82%の生徒が肯定的評価)

① について…本時の振り返り「自分にとっては普通にわかることでも、相手に伝えるとなると大変だった。理解してもらうためにどの言葉を使えばいいか難しかったからだ。」「班のスライドをみて、同じ言葉からでもこんな考えもあるんだなと思った。自分とは別のところに着目してとても面白く、充実した1時間になった。」から、生徒が普段何気なく言葉を使っていたことを自覚し、その伝え方や捉え方を問い直す姿が窺え、「深い学び」に向かっている様子が示唆される。単元最後の生徒作文「『子曰く、己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。』は集団生活をしているなかでとても大事にすべき言葉だと思いました。中学校生活はあと数か月で終わりますが、これから世の中に出ていくにあたって、自分がしてほしいことを相手にしないことは良い人間関係を築くうえで大切だと思います。孔子は悲惨な時代を生き、数々の壁があったからこそ、人間関係を大事したいと考えたのかと思いました。いくつ歳を重ねてもこの言葉は生きていくなかで大切な言葉だと思いました。」から、生徒が内容を深く理解したとともに、「論語」が自分達の生活にどうかかわるかの視座を形成することができたと考えられる。

② について…生徒の「音読することで大体の内容がわかって課題に取り組めた」という感想から、予習として教材文の音読を課し、それをロイロノートに送信させたことで、音読が苦手な生徒に対して個別に支援を行うことができたと考えられる。今後もICTを効果的に活用して、個に応じた指導を行っていきたい。

(3) おわりに

今回の研修から、構想段階で生徒の「深い学び」の姿をどれだけ具体的にイメージできるかが大切だと実感した。また、今回小学校5年生に協力していただき、生徒が作成したスライドに対してコメントをもらうことができた。生徒が達成感を得てこの単元を終えられたことに感謝している。そして、文章の読み取りを効果的に行うためにも、反転学習が有効だと感じた。反転学習の一層の習慣化を図り、確立させたい。